



発行者:社会福祉法人じねんじょ  
発行日:平成31年4月1日  
TEL:083-252-2227  
FAX:083-252-2259  
E-mail:jinenjo@jinenjo.or.jp  
<http://www.jinenjo.or.jp>

VOL.  
31  
2019/04

# 大地

(じねんじょ通信)

## 増加する医療的ケア児と受け皿づくり

我が国では、医療的ケアを受けながら地域で暮らす人たちが10年間で2倍に増えています。増加の主な要因は、新生児医療や小児救急医療の進歩、加齢による障害の重度化によるものです。国は2016年に児童福祉法の改正を行い、地域における医療的ケア児の支援体制の整備に向けた取り組みを自治体に義務づけました。その内容は、連携会議の設置、重症心身障害児の利用が可能な児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所の確保、医療的ケア児等コーディネーター養成研修事業などです。

2019年に下関市においても、医療的ケア児支援連携会議がスタートし、私や職員、保護者がこの会議に参加しています。じねんじょにおいても、医療的ケアが必要なメンバーさんが増えています。加齢により胃瘻や鼻腔栄養や気管切開が必要になった方が多いですが、一方、知的障害や運動障害はない(軽い)のに医療的ケアが必要な子どもも増えています。保育園や通常の小中学校での医療的ケア、福祉事業所での医療的ケア、ショートステイ、保護者への就労支援など支援ニーズも増えています。今後は、医療・福祉・保育・教育・行政関係者が知恵を絞り制度を新たに創設していく必要があります。

じねんじょは今年の4月で15年目になります。開設当初から医療が必要な重症心身障害児・者を地域で支えるために活動して参りましたが、新たな局面を迎えています。一つは、上に述べた医療的ケアの増加ニーズへの対応です。重症児ではない医療的ケア児も受け入れることが求められています。

今、最も困っているのが、他の施設同様、保育者や支援員、看護師、理学療法士などの不足です。職員が不足すると、利用希望者があられてもニーズへの対応が困難になるし、職員の負担も増えてきます。また、現在の施設だけでは地域のニーズに応えられないため新たな施設の開設も計画中です。

じねんじょで働きたい方が増えてくれることを願っていますし、働きやすい職場づくりに力を注ぎたいと思っております。お知り合いの方がおられたらご紹介下さい。

社会福祉法人じねんじょ理事長  
金原 洋治

## 2018じねんじょフェスティバル開催

平成30年10月21日(日)「じねんじょフェスティバル2018～じねんじょから地域へ、笑顔の花を咲かせよう～」を開催いたしました。

音楽コンサートやネットボールゲーム、パステル、折り紙などの催し、福祉施設の食品販売、手づくり雑貨販売等、たくさんの方のお力添えをいただき、大盛況のうちにフェスティバルを終えることができました。ご来場いただいた皆さん、ありがとうございました。

これからも地域の皆さんとのつながりを大切に歩んで参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



## 「成人を祝う会並びに理事・評議員との懇親会」を開催しました

平成31年3月7日にグランドホテルにて、成人を祝う会を開催しました。

じねんじょでは、20歳の成人を迎えたメンバーのお祝いを、とても大事にしています。今年度は1名でしたが、会場にお集まりいただいた皆さんとコース料理をいただきながら、和やかな雰囲気の中、お祝いの会を開催することができました。この日を迎えるまでの20年間を共に振り返り、かわいらしい女の子から、綺麗な女性に変化していく様を見る事ができ、感慨深く思いました。

これからもじねんじょ職員一同、また、じねんじょを支えて下さっている関係者の方々と共に、メンバーに寄り添いながら、たくさんの笑顔が引き出せるような支援をしていきたいと思います。

今年度より理事・評議員の方々との懇親会も兼ねての開催となりました。じねんじょの日頃の活動をお伝えする事もでき、メンバーと家族と直接顔を合わせていただける良い時間になったと思います。短い時間ではありましたが、有意義な時間が過ごせたのではないでしょうか。

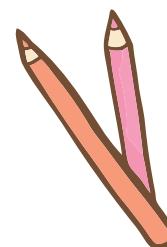


## ポスコン?!2018に応募しました

毎年、秋吉台国際芸術村で開催される「ポスコン?!2018」にじねんじょメンバーも応募しました。

今回は、県内外から大多数の作品の応募があったそうです。厳選なる審査の結果、高木美咲さん、濱本幸祐さんの作品が、一般の部で入選しました。

アートセラピストの藤井先生の下、活動の中でパステル画を描くことでゆっくりと色に触れ、色と感情の世界に親しみ、言葉でうまく表現できない「気持ち」「感性」をポストカードに描きました。



# 平成30年度山口県医療的ケア児等コーディネーター養成研修に参加して

相談支援事業所じねんじょ 小寺美帆

生きるために人工呼吸器や経管栄養といった医療技術が必要な「医療的ケア児」も医療の進歩により病院を出て家庭で暮らすことができるようになっています。新生児医療が発達して超未熟児の命が救えるようになったことによって、10年間で2倍近くに増えているそうです。

医療的ケア児は早期に医療との密接なつながりがありますが、子どもは成長とともに社会資源との関わりなど障害福祉サービスの導入も重要となり、医療の専門職である看護師だけでは対応することが難しくなっていきます。そこで医療的ケア児に関する医療・福祉・教育の制度を包括的に理解し、支援計画を立てるコーディネーターの必要性が高まり、平成28年度に都道府県による「医療的ケア児等コーディネーター養成研修」が開始されることになりました。平成30年度、山口県も本養成研修を実施することになり、先日私も受講させていただきました。

医療的ケア児等コーディネーターに求められることは、①「生活の場」における「医療」「介護」ニーズに応える体制をつくること、②ライフステージを通じ、一貫した支援を保障するための縦横連携を構築すること、③多職種連携を基本に、子どもの発達や豊かな育ちを保障すること(発達支援)、保護者が子どものことをより深く理解し、焦らずに子育てに向き合えるようにサポートすること(家族支援)の3点にまとめられると思います。

私にはある忘ることのできない1人のお母様の言葉があります。9年前くらいの話になりますが、相談に来られたとき、「この子は私のところへ生まれてきて本当によかったのでしょうか…」とたずねられたのです。若さと経験の乏しさも手伝って、どのように答えたらよいのかわからなく、「ご家族とお子さんが最もよい暮らしの方法と一緒に考えましょう」というのが精一杯でした。障がいの受容という情緒的な課題では片づけられない重積なことだと思い、それ以来「こどもたちが、家族がよりよく生きるために何が必要か」を考えていくことが私の課題となりました。

4年前のじねんじょ公開フォーラムに講師としてお招きした小児科医の田中総一郎先生が、医療と福祉などの多職種が連携する意味は「子どもさん、お父さん、お母さんみんなそれぞれが『生まれてきてよかった』と思えることにある」とお話ししてくださいました。私にこれからできることは、「チャイルドファースト」という視点にたち、医療という他分野との連携をおそれずに、良質な対話ができるようにすることだと思っています。また組織の「連携」も一人ひとりの「連係」からだと思いますので、支援チームの構成メンバーが同じ目標に向かってすすんでいけるように働きかけ方を考えていきたいと思います。

## 全国重症児デイサービス・ネットワーク全国研修の報告

重症児(重症心身障がい児や医療ケア児など)とその家族が全国どの地域でも普通に暮らすために、主たる対象を重症心身障がい児とする児童発達支援又は放課後等デイサービス事業所、及びそれらの設立を目指す者が、協力・連携しネットワークづくりのための活動をしています。

平成30年度は、赤い羽根福祉基金の助成をいただき、支援側に必要な基礎的・基盤的知識の共通化を図るため、介助技術、療育・発達支援、摂食嚥下、看護医療などをテーマに、全国各地で複数のテーマによる全国研修が開催されました。(福)じねんじょは、摂食嚥下(北九州市小倉開催)、看護医療(山口県下関市開催)の研修運営をさせて頂き、連携する機関や支援の仲間ともに学び、交流を深めました。



## 地域における公益的な取組の報告

当法人が加盟している下関市社会福祉法人地域公益活動推進協議会(地公推)は、加盟する市内の社会福祉法人が、制度の狭間や既存の仕組みでは解決が難しい福祉ニーズに対応するために取り組んでいます。

本年度の「ふくし生活SOS出張相談会」の活動等を紹介します。加盟法人の専門性などを活かして、豊浦コスモスまつり菊川ボランティアまつりなどの地域イベント会場やゆめタウン長府などのショッピングモール等で「ふくしなんでも相談」血圧や血管年齢チェックの「健康チェックコーナー」「ゲームコーナー」などを催しながら、福祉の総合相談会を開催しました。

## じねんじょの輪



下関市障害者スポーツセンター  
小田先生・古野先生

下関市障害者スポーツセンターは、障害者のスポーツ及びレクリエーション活動の参加、健康の維持・増進、社会参加の促進を図ることを目的に下関市が設置した施設です。

いろいろなスポーツ教室や大会を開催していますが、障害のある方が住み慣れた地域でスポーツ活動に参加していただけるよう、スポーツセンターまで足を運んで利用していただくことが難しい方々(施設・学校・地域)を対象に「障害者スポーツ出前・体験教室」を開催しています。

じねんじょさんには、毎月1回出前教室でお邪魔させていただき、メンバーさんとストレッチ、ボールを使った運動や風船バレー、ボールを楽しんでいます。

メンバーさんの笑顔に会えるのを私たち体育指導員も毎月楽しみにしています。



## 「じねんじょ図書館」の紹介

じねんじょ開設から15年が経ち、図書も250冊弱に増え、良本が多いにもかかわらず整理されていないまま、雑然と相談室の本棚の中に埋もれています。

この度、「医療・療法」「療育・家族支援」「摂食」「介護技術」「制度・運営」「社会資源・相談」「その他」の7つのジャンルに整理し、“じねんじょ図書館”と銘打って図書スペースを設置しました。設置場所は、じねんじょ3階スヌーズレン横です。少し奥まっていますが、一般の本屋さんでは見ることができない重症心身障害者や発達障害に関する専門書籍が揃っています。

貸し出しもしておりますので、是非立ち寄ってご覧になってください。



## 寄付者氏名(敬称略、順不同)

平成30年8月28日～平成31年3月1日

やまぐち小児科／さわり織サークル／  
株式会社 松岡／大畠一郎／れんげ畠  
／匿名／梅光学院幼稚園保護者会／  
じねんじょ保護者会／六人会／理事・  
評議員／明本治男／田中和子／じね  
んじょ窯

ありがとうございました。

## 編集後記

新しい年度の始まりです。気持ちも新たに新生活を始めた方も多いのではないでしょうか!今年の寒い冬も終わりと言いたいところですが、朝晩の寒暖差はまだ続いているので体調を崩さない様にお気をつけください。

新年度も職員一丸となって頑張っていきたいと思います。これからも宜しくお願ひします。